

全校20人みんな本が好きな子どもたち

北設楽郡設楽町立清嶺小学校

1 小規模校のメリットを生かした学校図書館教育

清嶺小学校は、三河山間部の北設楽郡設楽町にある4学級の複式小規模校です。児童数が20人ですので、日々の様々な教育活動を全校で行うことが多く、学校図書館教育にかかわる活動も、小規模校のメリットを生かして、全校みんなで行っています。学年、学級ごとの読書活動や授業に関連した活用も、推進していますが、今回は全校での図書館活動を紹介します。

2 心が落ち着く朝の読書タイム

毎週木曜日の朝には、20分間の読書タイムを設けています。職員の朝の打ち合わせを終えて図書室に行くと、全校児童が静かに本を読んでいます。全校が図書室で一斉に読書ができるのも、児童数20人の小規模校ならではのことです。物語、絵本、歴史漫画、料理の本、図鑑と、読んでいる本は、様々ですが、高学年が手本となって真剣に取り組むので、いつでも全員が集中して読書をしています。



どんな本からも学ぶことはあると思いますが、子どもたちには、学年相応の本を読むことや活字の多い本を読むことを大切にしてもらいたいと思っています。活字の多い本を読んでいる子には、「よい本を読んでいるね。」と声をかけ、物語に親しんでいることを褒めるようにしています。また、歴史漫画ばかりを読んでいる子には、「その本も分かりやすくいいけれど、この本も詳しく書いてあっていいよ。」と伝記を紹介したりして、子どもたちの読書の幅を広げるようにしています。

この週1回の読書タイムは、子どもたちが読書に親しむきっかけにもなり、読書の日常化と継続にも有効です。また、朝から落ち着いて自分のペースで好きな読書ができるので、子どもたちの心の安定にも役立っています。

3 読書に親しむ活動を推進している図書広報委員会

(1) 図書広報委員による「ぼく・わたしのおすすめの本紹介」

本校では、図書広報委員会の児童が全校に読書を呼びかける活動を積極的に行っています。図書広報委員は、学校図書館活動の推進役です。20分間の休み時間を使い、図書広報委員会企画の「ぼく・わたしのおすすめの本紹介」をしました。



5人の図書広報委員が、全校児童を対象に、自分が読んでおもしろかった本やためになった本の中から、みんなに読んでもらいたい本を選んで、その本のよさを伝え、読書を呼びかけました。図書広報委員は、みんなに本をたくさん読んでほしいと願って、主体的に活動し、一生懸命紹介しました。本の内容や話の続きが知りたくなるように、本を読みたくなるように、紹介を工夫していました。図書広報委員の働きかけによって、全校児童の読書や本に対する意識が高まり、図書室の利用も増えました。

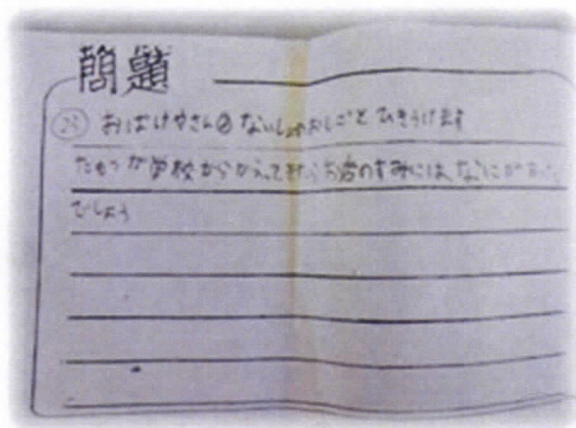


～紹介を聞いた子どもの感想～

- ・ ぼくは、総合的な学習の時間に米作りをしたし、家でも米を作っているので、Aくんが紹介してくれた、米についての本を読んでみたくなりました。
- ・ みんな、楽しそうな本を教えてくれたので、どの本も読みたくなりました。それから、紹介してくれた以外の本も、自分から読みたいと思います。

（２）図書室の本を知る「本さがしオリエンテーション」

6月の読書タイムの時間には、図書広報委員会の企画による「本さがしオリエンテーション」を行いました。全校縦割りのなかよし班ごとにチームになって、問題用紙に書かれた本を、図書広報委員が教えてくれるヒントを参考にしながら、書架から探すというものです。図書広報委員は、全校のみんなにもっと図書室の本のことを知ってもらいたいという願いをもって、熱心に準備を進めました。そのかいあって、どの班も協力し合って、夢中になって本を探していました。図書室の本との新たな出会いがあり、その後の読書に広がる活動となりました。



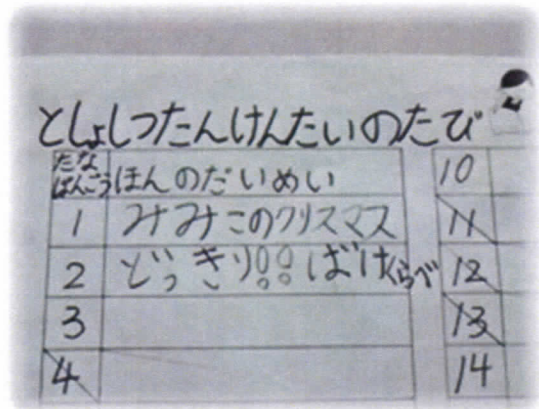
～紹介を聞いた子どもの感想～

- ・ みんなが参加できるオリエンテーションを計画してくれたので、楽しめました。
- ・ 図書室にどんな本があるか分かったので、よかったです。借りて読んでみたいです。

複式小規模校の本校では、3年生から委員会に所属し、活動をしています。高学年の委員が、中学年の委員に優しく教える姿がよく見られます。この活動でも、本の選び方やヒントの書き方などを、5・6年生が3年生に丁寧に教えていました。図書広報委員は、委員会活動の時間だけでなく、休み時間も使って活動の準備を進めました。一人で10冊以上の本を調べ、ヒントを用意しました。こうした委員のがんばりが全校の児童に伝わり、活動後、貸し出し数が普段よりも伸びました。

（３）読書の幅を広げる「図書室探検隊の旅」

図書広報委員会は、「図書室探検隊の旅（としょしつたんけんたいのたび）」という活動も進めました。この企画は、図書広報委員が知恵を出し合い、みんなが図書室の本を手にとって、いろいろな分類（ジャンル）の本を読むようにと願って考えた企画です。夏休みをはさんで、秋まで続けました。全校の読書意欲を高め、１年生も楽しそうに本を読んで、しっかりと記録をしていました。



（４）全校みんなで本を読んで葉っぱを増やす「読書の木」



図書広報委員会の児童は、全校の読書量を増やすために、「読書の木」の活動も企画しました。本を一冊読み終えたら、書名と自分の名前を書いた葉を貼っていくというものです。ほぼ毎年、秋の図書館の活動として行っています。秋の深まりとともに、「読書の木」も紅葉した葉をつけていきます。

こうした活動に全校で取り組めるのも、小規模校ならではのことで、みんなで「読書の木」を色づかせようと読書に励みます。先生の中にも、読書をして、葉っぱを貼って応援する先生もいます。先生が読書をする姿は、子どもの手本になり、子どもの読書意欲をかき立てます。

毎年、１か月間に、一人平均、低学年は１０冊ほど、高学年は５冊ほど読破します。読書量アップに効果的な活動として定着しています。

秋になると、「今年は、『読書の木』の活動をしないのかな。早くしたいな。」という子がいます。今後も継続していきたい活動です。

4 地域の方による「ふれあい読み聞かせ会」

第1、第3水曜日には、朝の全校活動の時間に、「ふれあい読み聞かせ会」を行っています。現在、8人の地域の方が、ボランティアのふれあい講師として、子どもたちに本を読んでくださっています。1回に3人の方が来校されて、1～3年、4年、5・6年の3グループの子どもたちに、読み聞かせをしていただきます。1回の時間は20分間で、年間12回、のべ36回実施しています。

この「ふれあい読み聞かせ会」は、子どもたちが大変楽しみにしている本校の伝統的なものです。地域の方々が、本が好きな心豊かな子になってほしいと願って、「清嶺小学校ふれあい会」活動を始めてくださって、今年で14年目になります。

講師の方々は、対象学年に合った本を公共図書館で借りたり、時には書店で購入したりして、子どもたちのために本を用意していただきます。子どもたちは、熱心にお話を聞き、地域の方とのふれあいを通して、本に親しむことができます。

「ふれあい読み聞かせ会」のひとつときには、ゆったりとした心地よい時間が流れます。子どもたちと地域の方、みんなの笑顔が、教室に広がります。



子どもは、本と出会い、人とふれあい、知識や心を豊かにします。今後も、本校では学校図書館教育を重視し、読書にかかわる日常的な活動や子どもの主体的な活動、地域と連携した活動を継続、工夫し、本が好きな子を育てていきます。